

研究の背景 研究の舞台は島！

生物多様性とは生き物達の豊かな個性と繋がりのことである。ネイチャーポジティブ（生物多様性の損失を止め、回復軌道に乗せること）を達成するには特定の生物種の保全のみならず、生物種間がどのように関連しあい生態系が成り立っているのかをより広い視野で理解する必要がある。

伊豆諸島の利島にはオオミズナギドリという海鳥の集団営巣地がある。彼らの栄養塩を含む糞尿は陸域で排出され、陸上生態系の基盤となっていることが予想される。だが、近年繁殖地でネコが目撃されており、オオミズナギドリへの影響が懸念されている。一方、ネコはネズミやイタチの抑制に効いているかもしれない。

そこで、本研究では利島を舞台に生物種間の繋がりを定量的に明らかにし、生物多様性保全において生態系を包括的に捉える重要性を示す。



アプローチ

生物種間の繋がりを調べる

複数の研究テーマを予定しており、最終的に各研究結果を併せて生態系における生物種間の関連性を明らかにする。テーマ例は以下のとおり。

- ① センサーカメラや踏査による島内のノラネコ・ノネコの生息調査
- ② 海鳥（オオミズナギドリ）の生息数および繁殖成績の調査
- ③ ネズミやイタチの個体数および食性、寄生虫などの調査
- ④ オオミズナギドリ繁殖地周辺の植生および昆虫類の調査

野外調査は伊豆諸島にある利島で実施し、数日の宿泊を伴う。取得したデータの解析は大学でおこなう。各テーマについて責任を持って取り組む代表者を決め、それぞれの調査は協力しておこなう。

期待される結果

環境を含めた生物同士の繋がりを定量的に把握することを通して、物事を広い視野で俯瞰できる力を涵養します。また、野外調査を実施することで、動植物や環境評価の諸手法を学ぶことができます。さらに、現地の人々との交流を通して、自然環境を研究する上で重要となる渉外やコミュニケーションの在り方を実感できます。なにより、島での調査は楽しいです！

募集方法

全学科の学生を対象とし、4～6名程度を募集します。説明会を実施するので、参加希望者はそちらに参加してください。希望者多数の場合は面接の上で選抜します。現地の人々と交流があるため、挨拶や御礼がきちんと言えるなど、節度ある行動ができることが望ましい。なお、利島まではフェリーで移動するため、船酔いをする可能性があります。